

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2791500057		
法人名	社会福祉法人 森の宮福祉会		
事業所名	グループホームハミングベル緑橋		
所在地	大阪府大阪市東成区中本1丁目11-1		
自己評価作成日	平成 26年 10月 17日	評価結果市町村受理日	平成 26年 12月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2791500057-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2791500057-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 11月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外へ出かける事が好きな入居者様、職員が多く毎日のスーパーへの買い物や突発的な外出の機会を多く設けています。外出行事(遠足など)では行く先を複数設定しなるべく自己決定していただいています。また、地域を知り外との繋がりを大切に夏祭りや運動会など地域行事にはどんどん参加しています。施設で開催する行事も地域に開催し交流に努めています。そして、寄り添う介護を心がけた個別ケアにも努めています。法人の基本理念として「笑顔・まごころ・ハーモニー」、運営の2本柱は「地域」と「音楽」そしてグループホームハミングベル緑橋では「心がまえ 6カ条」を月間目標として取り入れ、入居者様の笑顔を大切に日々業務に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前理事長の「すべての人が住み慣れた町で、心豊かに暮らし続けるために」との思いで設立された、社会福祉法人が運営するグループホームです。駅から徒歩1分のところに建てられた、地域密着サービスセンターの2・3階に位置しています。法人理念の「笑顔・まごころ・ハーモニー」のもと、職員としての心がまえ6カ条を日常活動の礎とし、質の高いサービスの実践に繋げています。永年の地域福祉活動の実績は地域から必要とされる事業所となり、地域の多くの応援団に支えられています。職員の人材育成にも積極的に取り組み、合宿新人研修をはじめとして研修の機会は数多くあり、職員は様々な体験をしています。利用者・家族・地域・ボランティア・職員の調和(ハーモニー)も大切にする理念の実践は、「職員のチームワークの良さが私たちの自慢です」と職員から言葉があり、利用者も職員も表情が明るく活き活きとしているグループホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>基本理念「笑顔・まごころ・ハーモニー」職員は常に入居者様に対して笑顔とまごころを大切に、外出時、地域の方への挨拶を心がけている。また入居者様、地域の方はもちろん職員同士の調和(ハーモニー)も大切にしている。</p>	<p>「笑顔・まごころ・ハーモニー」を基本理念とし、「いつも笑顔で、心がこもり、皆仲良く、みんなが幸せになれたらいいな、地域も、利用者も、家族も、ボランティアも、職員も」と解りやすく表現しています。理念は月曜日の朝礼で確認し、職員間で共有しています。また、職員としての心がまえ6カ条を日常活動の礎とし、質の高いサービスの実践に繋げています。6カ条は更に具体的な月間目標にして、周知徹底しています。法人理念に沿った管理者の目指す思いが、職員に浸透しています。</p>	<p>今後、理念や6カ条をホーム内に掲示する等工夫し、事業所の理念が地域や家族により理解・支持され、地域密着型サービス事業所として、さらなる発展に繋がることが期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	スーパー、喫茶店、クリーニング屋、美容室・・・近隣のお店を活用し、必ず入居者様と共に行く。地域の催し物にはなるべく参加しまた、地域向けの音楽サロンの実施、「夏祭り」「アート展」は地域に開放など日頃からも出入りできる環境作りに努めている。 地域の方がボランティア活動にも努めてくださっている。	地域との交流は、積極的に取り組んでいます。区民ホールでの「いきいきシニア文化祭」では、利用者が歌と踊りを披露しました。地域向けの音楽サロン、夏祭り、アート展等、地域に開放し、地域住民が訪問しています。毎年恒例の餅つきをはじめ、多くのボランティアの協力は、利用者の豊かな暮らしを支える大きな力となっています。ボランティアからも、「集まれる場所があって嬉しい」と喜ばれています。ボランティア活動や行事を通して、地域住民の認知症への理解も広がっています。地域の子どもが気軽に遊びにくることもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	1回/月「みどりんぐカフェ」の開催、 2回/年「だんじり巡行」の休憩場所、 定期的な「避難訓練」の実施により入居されている認知症の高齢者と地域の方とがふれあう事で少しずつ理解の場が増えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>毎月の行事やクラブ活動、日常生活風景の写真を映像で流す事でグループホームでの生活を分かりやすく報告している。また、出席者より意見や感想を頂き今後の課題に繋げている。出席者が楽しめる会議内容になるよう努めている。</p>	<p>利用者・家族・地域連合会役員・民生委員・地域包括支援センター職員等の参加で2カ月に1回開催しています。会議では、利用者とその家族が1組ずつ参加して、日常生活風景の写真を映像で流し、ホームでの暮らしをわかりやすく報告しています。苦情も公表し、参加者から助言を得て、ホームの運営に活かしています。参加者の助言から、陶芸クラブを作ることができ、利用者・家族に喜んでもらっています。</p>	
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議での意見交換を主に、疑問点等あれば大阪市への報告、連絡、相談を適宜行っている。</p>	<p>市の担当者とは、日頃の業務を通して相談できる関係を築いています。区内のグループホーム連絡会が定期的開催され、市との連携を図りながら、情報交換やサービスの質の向上について交流を図っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>                      代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全職員対象の勉強会を実施し、身体拘束の理解に努め、身体拘束をしないケアの取り組みをしている。EVは暗証番号式ではあるが外出したい時、入居者様の安全を確認の上外出に努めている。                      キーロック解除に向けては建物を町会形式に設定し利用者様の行き来を可能にする取り組みを検討。                      また、言葉による抑制にはとくに意識を高めケアに努めている。</p>	<p>管理者は、身体拘束等人権に関して、月に1回開いているユニット会議の中で発信しています。また、言葉による抑制についても意識を高め、常に「職員ころがまえ6カ条」に立ち戻り、考えるよう職員に伝えています。エレベーターは暗証番号でロックしていますが、施錠は課題と取り上げて、ロック解除に向けて段階的に取り組んでいます。今後は、それぞれの階を自由に行き来できるよう検討しています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者、自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全職員対象の勉強会を実施し、高齢者虐待の理解に努めている。入居者様への虐待の見過ごしがないよう、日々の業務の中での情報交換や職員指導に努めている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>                      管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>全職員対象の勉強会の実施を通じ、知識向上に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者で行い、入居者様、家族様の質問や疑問等の聞き取り、返答を柔軟に行っている。契約書、重要事項説明書以外にも必要な書類を作成し説明と理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、重要事項説明書に苦情相談窓口の連絡先を記載している。苦情・要望があがった際は記録として記載し原因や対応を職員間で周知している。	家族の面会時には、その都度声かけを行い、意見や要望を聞くようにしています。運営推進会議には、すべての家族が参加できるように配慮しています。ホームでの生活状況が伝わる写真入りの「月間みどりんぐ」を発行し、家族に送付しています。また担当職員は、利用者が希望する家族全員に、年賀状を出す支援をしています。家族からの苦情については真摯に対応し、歩み寄れた事例があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>                      代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回グループホームユニット会議を開催し入居者様の支援方法についての話し合いや、担当会議(委員会)での報告事項、行事関係、その他運営全般に関する報告や意見交換を行っている。</p>	<p>毎月の会議には夜勤者以外全員出席し、意見を出し合っています。管理者は日常的に意見が言いやすい雰囲気づくりを大切にしています。また、年1回人事考課シートを基に、個人面談を実施しています。法人として人材育成に積極的に取り組み、宿泊新人研修をはじめ、研修の機会は数多くあり、職員は様々な体験をしています。職員の意見を尊重する管理者の姿勢は、職員の士気を高めています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務表作成時に月の公休数を厳守し希望休も取り入れている。                      残業にならないように業務配分の調整をしている。職務調査1回/年の職員面接にて現状や意向、やりがいを聞き取り向上心を持って働けるように努めている。また「サービス向上・食事担当」により定期的に職員対象に意識調査を行っている。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設全体での職員研修を毎月1回、グループホームでのユニット会議を毎月1回実施している。                      法人外の研修にも参加を募り、また研修内容によって人選し積極的に参加できている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「東成区グループホーム連絡会(管理者会議)」に1カ月に1回、「東成区グループホーム現場職員交流会(現場職員)」2カ月に1回出席。「東成区認知症ケア実践者の会」や大阪市老人福祉連盟「グループホーム委員会」に出席し他事業所との交流通じ、得た情報等を現場に反映させている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントにて管理者、ケアマネジャーにより入居するにあたり本人の意向や要望の聞き取りを行っている。入居後は担当職員をつける事でまずは関係作りに努めその後安心した暮らしに繋がるよう全職員で支援していく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントにて管理者、ケアマネジャーにより入居するにあたり家族様の意向や要望の聞き取りを行っている。緊急時以外にも連絡や確認を怠らず安心、信頼できる関係づくりに努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、申込みに来られた段階で不安や要望に対してグループホームだけではなく他のサービス内容の説明も行い必要に応じたサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様と一緒に、家事全般(買い物、調理、掃除等)を行い、昼食は同じ時間に同じものを同じテーブルで家庭的な雰囲気のもとで一緒に食べ共に過ごし支え合う関係づくりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の案内、参加を積極的に行い家族様が施設に足を運びやすい環境作りに努めている。また、緊急時以外にも連絡や確認を怠らず常に職員と家族様で本人を支えていく体制をとっている。また自宅への一時帰宅への同行にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b>                      本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>美容室やスーパーその方の馴染みの店や場所に行けるように努めている。また、区外の方に対しても定期的に馴染みの場所への同行に努めている。</p>	<p>職員心がまえ6か条の「入居者のこれまでの生活背景をよく知ろう」「地域密着を目指して」を実践しています。利用者の友人が、ホームに訪問することがあります。入居前に通っていた美容院に出かけたり、スーパーや懐かしい中華店に行ったり、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援しています。また、入居後の新たな馴染みの関係も大切に、新しく入居される利用者は、「ウエルカムボード」を準備して、職員と利用者全員で迎えています。利用者同士認め合う、良い関係を構築しています。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b>                      利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事席やフロアのくつろぎスペースの配置を考慮し、一人ひとりにとって窮屈でない居心地の良い過ごしやすい環境づくりを行っている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取り組み</b>                      サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族様への定期的な連絡はしていないが、退居後の施設へ面会に行ったり、引き続き本人・家族との交流を図っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントにて入居するにあたり本人の意向や要望の聞き取りを行っている。困難な場合は家族様からの情報をもとに本人の立場になり検討している。	日常のケアの中での気づきや発見は、会議の中で報告し、職員間で情報を共有しています。管理者は、職員に利用者の様子を観察することや利用者の気持ちを汲み取ることの大切さを常に伝えています。利用者は、職員が好き嫌いや食べやすい形態等を把握していることに喜んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント情報や前のケアマネジャーからの情報提供によりこれまでの生活歴等の把握に努めている。家族様からの情報も適宜取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前のアセスメント情報をもとに日々の生活状況を観察し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各専門職からの情報収集を行い、家族様を含めたカンファレンスを実施する。今後の課題や支援方法を話し合い、計画作成担当による介護計画書の作成を行う。	入居後、日頃から関わる中で収集した情報を、担当職員が「入居後情報シート」に記入しています。モニタリングも毎月、受け持ち担当者が実施しています。利用者一人ひとりの入居時には見えていなかった特技や、好みなども見つけ出して支援し、介護計画に反映させて、生活の活性化を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンにて各ケース記録へ入力(種別分けにする事での確かな情報収集)、申し送りノートの活用で情報の共有により日々の業務の中で必要なケアの提供に努めている。また、職員会議にてケアの方向性、統一、変更の検討等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行きたい、やりたいと思っている事は早い段階で企画し思い切って実行する事ができている。日々の生活の中で一人ひとりのニーズを把握し、その方に合った個別の支援方法を提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設の情報把握に努め自施設の存在を知っていただき、本人や家族様からの情報をもとにその方に合った地域資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医は継続して頂き必要時はDrへの連絡票を記載し連携に取り組んでいる。(場合により看護師も同行している)	入居前からかかりつけの医療機関への受診は、本人や家族の希望を尊重しています。受診の際は、医師への連絡票を持って家族が同伴しますが、家族が付き添えない場合には、職員が同伴します。医療連携体制で、夜間や緊急時の対応も整備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、介護職は常に状態を把握し看護師への報告、連絡、相談を行っている。また必要に応じて病院等の連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会の頻度を増やし、病状聴取に努めるとともに、家族様との連携、必要時はカンファレンスの出席に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応や、可能な支援などの説明は必要な段階で行っている。また、重度化した場合や終末期に向けて往診可能なDrとの連携をより深めていけるように努めている。終末期における施設の方針など契約時に説明を行っている。	重度化した場合の終末期支援については、指針を作成し、入居時に利用者と家族へ説明しています。実際に終末期支援が必要になった時には、改めて家族の意向を確認していきます。これまでにホームの3階で看取った事例もあり、他の利用者と全員で見送りました。今後も、終末期支援についての研修を進めていく予定です。	今後予定している研修を継続し、看取り介護にあたって心がけることをマニュアルに入れ、終末期支援の体制作りが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のフロチャートを作成、提示、また職員に配布し定期的に見直しを行っている。 全職員対象に勉強会を実施し対応方法に対応方法の手順・技術向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年、災害想定訓練(日中・夜間想定)を地域の方々と合同で行っている。 全職員対象に勉強会を実施し対応方法に対応方法の手順・技術向上に努めている。	消防署の指導を受け、年2回避難訓練を実施しています。消防訓練には、地域住民も参加しています。職員が建物の2～3階の非常階段を使って利用者を1階に誘導し、その後は地域住民が安全な場所まで利用者を案内する等の実地訓練も行っています。非常災害時用の水を準備しています。他の食料品は、同法人事務所に準備しています。	
<b>IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「心がまえ6カ条」の第5条取り組みの実施。 不安等を訴えられた場合は個別でゆとり時間をかけ傾聴し対応している。	職員心がけ6カ条の「心のこもった優しい言葉かけ」を実践し、一人ひとりの人格を尊重したケアに努めています。建築当初から、事業所内の共有スペースにカメラモニターが設置していますが、プライバシー確保の観点から、モニターの電源は切るようにし、職員間でプライバシーの確保について、認識を高めるように努めています。	今後カメラモニターに関しては、利用者の尊厳・プライバシーの視点を職員間で話し合い、モニターに頼らない事故の検証を工夫することが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望や要望を言いやすい、自己決定しやすい言葉かけの工夫に努め、個別でゆっくり時間をかけ傾聴し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	実施するクラブ活動や行事の内容をしっかり説明し参加の有無の決定をしていただき、毎日の散歩や買い物の外出時にも行く先や、目的を伝え判断して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には場所に合った服選びを一緒にいき、希望があればショッピングの企画を立て実施している。 お化粧品も忘れずに。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて楽しく買い物、調理、後片付け等できるように職員が支援しながら入居者様と一緒にいる。 買い物時には嗜好品等、自身で選び購入して頂く。湯呑み、お茶碗、お箸は個人の物を使用して頂いている。	昼食は、建物内の厨房で作ったものを利用者と一緒に盛り付けます。朝食・夕食は各ユニットで作ります。夕食の献立は、利用者の希望を聞きながら考え、毎日利用者と一緒に材料の買い物に出かけます。食事時には、あちこちから「美味しい」と利用者の声があがり、2階では、利用者が作成した3つ星マークを飾る等、食事は利用者も満足しています。ホットケーキやぜんざい等のおやつは、利用者も一緒に作り、楽しんでいきます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録、時間毎の水分摂取量の記入により職員が摂取量を把握し対応している。昼食に関しては栄養士の管理のもとバランスのとれた食事提供を行っている。嗜好をはじめ、口腔内や嚥下状態の観察にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施の声掛けや、その方の能力を考慮し、残存機能を活用した口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記入により一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄、パット除去や布パンツ使用を試みたり個別ケアに努めている。	利用者それぞれの排泄パターンは、排泄表を利用して把握し、トイレでの排泄やできるだけオムツをしないケアに取り組んでいます。季節や状況を見ながら、リハビリパンツを布パンツに替えるなどの試行により、結果として利用者の排泄の自立に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	「献立日課表」の活用でバランス良い食事の提供。便秘予防、解消に生活の中で運動(散歩や施設内階段の利用)を取り入れている ※今後の下剤に頼らない排便を目標とする。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴実施時間は決めておらず、毎日どの時間帯でも入浴できるように努めている(行事時以外は)。入浴を好まれない方に関しても1日を通して工夫した声掛けにより個々に合った支援をしている。	基本は週3回の入浴となっており、希望があればいつでも入浴できます。一人ずつ湯を入れ替え、ゆっくりと入ってもらいます。前回の入浴日を記録し、利用者毎の入浴状況も把握しています。ゆず湯や菖蒲湯などの季節湯で、より入浴を楽しんでもらう工夫もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンやリズムを大切に「共同生活」という場にとらわれず休息、就寝、臥床をして頂いている。自己決定が困難な方に対しても状態によって対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により薬管理を行い、お薬情報をもとに副作用、用法、用量を全職員把握できるよう努めている。また、変更時には記録の記載により全職員で周知している。服薬時には誤薬がないよう職員同士の声掛け、日にち、名前の声だしを意識して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のコミュニケーションや関わりの中で嗜好や楽しみ、生きがいになっているものを聞き取り個別支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や買い物時に行く先や目的を一緒に考える。また、定期的に普段行けないような場所に行けるよう企画を立てている。	毎日の食材やおやつの買い物は利用者と一緒に出かけます。馴染みの美容院や入居前の懐かしい中華店に行く利用者もいます。行事では、花見・水族館・コリアンタウン・ポーリング等、さまざまな場所へ外出しています。地域で開催される、「おやじカフェ」への参加も利用者の楽しみのひとつになっています。前もって決めた外出だけでなく、行きたい気分の時に出かける外出も大切に、「今日はドライブに行こう」と外出したりすることがあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金上限 10000 円をお預かりし買い物や外出時には必ず持参し、希望の嗜好品等を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時にはいつでも電話をかけられる環境である。手紙等のやり取りも支援できるように努めている。個人の携帯電話を預かり家族様との繋がりも大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂は「家」を意識したレイアウトで落ち着いて過ごせるような環境づくりに努めている。トイレに関しては居室の扉との変化がない為、カーテンを用いて分かりやすくしている。	エレベーターを降りると、格子戸が玄関になっています。ホーム内は、広くて明るく穏やかな雰囲気です。食卓以外にソファや椅子が数カ所設置され、利用者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮しています。リビングのカウンター越しのキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや食事の準備の音が聞こえ、生活感が漂っています。生け花クラブで生けた花も、穏やかな雰囲気作りに一役かっています。利用者と共に作成したアート展の作品をホーム内に飾っています。お散歩マップや写真等からも、利用者の日々の生活状況が伝わります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	「家」を意識したレイアウトでありつつ個別で過ごせる空間を設け、自然にそれぞれが居場所の確保をできるような空間作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた馴染みの家具や椅子、テレビ、または仏壇等の持ち込みはほぼ全て可能としている。	利用者が以前使っていた馴染みの家具や、大切にしている家族の写真等を持ち込み、その人らしい居室作りを工夫しています。仏壇を持ち込んでいる利用者もいます。職員は、家族と相談しながら利用者が過ごしやすいように支援しています。職員による日々の支援により、好きなものに囲まれた居室で生活をする利用者は、豊かな表情をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な雰囲気、空間づくりを大切にしつつ、安全に自立した生活ができるよう配置等の工夫に努めている。		